



たからっ子

(1・2・3月行事報告)

2025

[第123号]

令和8年3月26日発行

発行責任者 藤川顕彰

一年の成長をのせて

1月31日、アスパル富合にて生活発表会を開催しました。発表会は一年間の集大成として、日々の保育の中で親しんできた絵本や遊びを劇や遊戯に取り入れて進めてきました。練習を重ねる中で、劇の台詞を大きな声で言えるようになっていたり、遊戯を楽しんで踊ったりと、少しずつ自信をもって表現する姿が見られるようになりました。



当日は、ステージの上で精一杯取り組む子どもたちの姿に、大きな成長を感じることができました。

年度末を迎え、各クラスでは進級・進学に向けた準備を進めています。すみれ組では、これまで援助してきたことを少しずつ自分で行えるようになってきました。荷物の整理や衣服の着脱、箸の使い方など、できることが増え、「年少さんになる！」と友だちと声を掛け合いながら、進級への期待をふくらませて過ごしています。今後も、さまざまなことに興味をもち、挑戦する気持ちを大切に育んでいきたいと思えます。



ふれあい動物園

3月11日、毎年子どもたちが楽しみにしている「ふれあい動物園」がやってきました。園庭に出ると、箱の中のヒヨコにそっと触れ、「フワフワのジャンパーみたい」とほほ笑む姿が見られました。モルモットを膝に乗せたり、ヤギやヒツジに餌やりをしたりと、初めは怖がる子もいましたが、少しずつ指先で触れることができるようになっていきました。

動物たちとのふれあいを通して、子どもたちの成長を感じるとともに、「いのち」のあたたかさや大切さを肌で感じる貴重な体験となりました。

ふれあいの後はバイキングを行い、たくさんのメニューの中から自分で好きなものを選びました。「どれにしようかな」と迷いながらおにぎりやおかずを選ぶ姿も見られ、心もお腹も満たされる一日となりました。ご家庭からの野菜のご準備、ありがとうございました。



先日、園にやってきたふれあい動物園で、Yくんはやぎや羊に触れながら、楽しそうに過ごしていました。中でもお気に入り、豚の「てっぺいくん」。少し固い毛並みを、優しくなでる姿が印象的でした。

それから一週間後の朝、「てっぺいくんって何だったかな？」と声をかけると――

Yくんは人差し指をすっと鼻に当て、にこり。

一週間前の出来事を覚え、「てっぺいくん＝豚さん」と結びつけていたことに驚かされました。

子どもたちの成長の素晴らしさを、あらためて感じたひとときでした。

3月18日、お別れ会を行いました。年長さんと卒園前、最後のお集まりとなり、歌やプレゼント交換をして過ごしました。

各クラスからの贈り物が一人ひとりに手渡され、年長さんからは担任の先生と一緒に一針一針縫った布巾をいただきました。手渡すとき、涙を流す子どもの姿もあり、会場はあたたかな空気に包まれました。

最後は年長さんから歌のプレゼントがあり素敵な時間を過ごしました。



まことの保育 日常に溶け込む仏教用語「挨拶」

「一言、ご挨拶を申し述べます」――儀式などのときに、よく聞かれる言葉です。挨拶状などという手紙が来たりもします。ちょっとすごんで「挨拶してやるぞ」とか、冷たく「ご挨拶ですね」とか、挨拶は今では日常語になりました。しかし、挨拶はもともと仏教語なのです。挨拶は「押す」こと。挨拶は「せまる」という意味から、挨拶は、前にあるものを押しのけて進み出るといいます。

禅家では、「一挨拶」といって、師匠が門下の僧に、または修行僧同士があるいは軽く、あるいは強く、言葉や動作で、その悟りの深浅を試すことがあります。これが挨拶なのです。

そこから転じて、やさしく応答とか返礼、儀礼や親愛の言葉として使われるようになりました。最近、日常の挨拶が少なくなったように思います。日々の暮らしを円滑に過ごすためには、まず挨拶からですね。

一年間、日常に溶け込む仏教の言葉を紹介してまいりました。普段何気なく使っている言葉の中にも、ほとけさまの大切な教えが息づいています。ふと立ち止まり、その意味に触れるひとときとなっていれば嬉しく思います。

編集後記

おかげさまで60周年を迎えた今年度も、様々な行事や園での様子をお伝えしてまいりました。子どもたちが一つひとつ成長していく姿を、大変嬉しく感じております。

一年間、あたたかいご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。来年度も、お子様の一つひとつの成長を皆様と共に喜び合いながら、見守ってまいります。

すみれ組

▷お知らせ 令和8年度より、園内発行物の見直しに伴い、職員紹介の紙面での配布は行わないことといたしました。なお、職員紹介につきましては保護者説明会にて行います。ご理解のほどよろしくお願いいたします。